

【2015 統一自治体選挙—県知事、県議会議員、福岡市議会議員選挙が施行されました。】

福岡県政、福岡市政のこれから4年間で託されました！



↑ 2期目の県政の舵取りを託された小川知事 (4/13 西日本新聞)

← 2期目の県議会に臨むことになる原中まさし

「2015 統一自治体選挙」の前半となる県知事、県議会議員、福岡市議会議員の各選挙が施行され、4月12日に投開票が行われました。今後4年間の福岡県政の舵取り、福岡県議会ならびに福岡市議会の議会運営を誰に託すか、大変重要な選挙でした。

選挙結果は、福岡県知事は小川洋知事が再選を果たすとともに、県議会議員は86名、福岡市議会議員は62名、新たな議員が誕生しました。

このうち、県議選の福岡市中央区選挙区では、3名の議席に対して4名が立候補。原中まさし県議は11,932票を獲得し、2期目の当選を果たしました。また、福岡市議選の中央区選挙区では、7名の定数に対して12名が立候補し、田中しんすけ市議(民主)は3期目の当選を果たしました。

県民・市民の信託、負託を受けた上は、皆様の信頼に応える政治を行うことを使命とし、これから4年間の県政運営に全力を注いで参ります。

県知事選、県議選も投票率の低下に歯止めがかからず。過去最低の投票率！

知事選の投票率は前回、平成24年3回行われた選挙で、38.85%と過去最低の投票率に歯止めがかからなかった。2003年の大規模の選挙で、38.85%と過去最低の投票率に歯止めがかからなかった。2003年の大規模の選挙で、38.85%と過去最低の投票率に歯止めがかからなかった。

5党相乗り狭い選択肢
無党派層への浸透も少なく

知事選投票率 過去最低 38.85%

福岡市議選 共産躍進 自民全区トップ当選

投票率 40.81% 最低

「2015 統一自治体選挙」の前半戦となる福岡県知事選挙、福岡県議会議員選挙、福岡市議会議員選挙は、いずれも過去最低の投票率となりました。

福岡県知事選挙の投票率は、県全体で38.85%、福岡市中央区の投票率は37.31%で、いずれも過去最低の投票率となりました。そして、福岡県議会議員選挙も、県下で軒並み投票率が下がり、福岡市中央区の県議選投票率は37.24%で、過去最低の投票率でした。さらに、福岡市議会議員選挙の福岡市中央区の投票率は37.23%、これも過去最低の投票率でした。

選挙の投票率向上については、これまで県・福岡市、各自治体でも様々な取り組みを進めてきましたが、低投票率に歯止めがかかっていません。投票率をいかにアップさせるか、今後4年間の県政の主要課題となります。